

## 中村先生からいただいたもの

稲田道彦

今も中村先生のことを思うと、ぬくぬくとした温かい気持ちがあわてきます。私は中村先生から一生涯、こういう気持ちで包んでいただきました。先生のことを心から敬愛しています。

先生と一緒に旅行することは少なかったのですが、一度だけ青ヶ島と八丈島に行ったことがあります。私が就職して、内地研修で中村先生の研究室でお世話になっていた時のことです。院生の木内さんと3人でした。島では機織りや青酎づくりの仕事を見せてもらいました。そこで出会った八丈島の土地保全の仕事をしている東京都の職員の方や、青ヶ島で島史をまとめられている方から気候に関する質問や相談を受けられていらっしやいました。お話しされている方も、先生からこんな風に言っていたらと自分の仕事に張り合いが見いだせるなど思っていました。生真面目でどこに行っても自分の専門から離れられない中村先生を後ろから見ていました。荷物の整理など、細部にまで気を配られる中村先生を感じました。日頃プライベートな側面をあまりお見せにならないのに、旅行すると、こんなところに人間中村和郎先生があるのかと私は見ておりました。常に自分を律しておられる中村先生でした。おひとりになられた時にこの緊張を緩められていたのでしょうか。

中村和郎先生に教えていただいてからおおよそ40年の年月が過ぎました。学部学生の時代、私はアカデミックな状況とは遠い学問環境にいたように思います。自分の回りのできごとのみに強い関心をめぐらせていた学生でした。学問の世界の大きさも構造も問題意識も何もかも、自分の認識の及ばない状況で先生のそばに行きました。東京都立大学で、諸先生方からは、学問とは、地理学とはという根元的な問題に立ち返って、そこから諸現象を考えるよう、自分の基盤を確立するように、また発想を切り替えるよう促されたのだと思っています。戸谷・中村先生が中心の地誌研のゼミナール。また野間先生、中村先生、堀先生、小林先生がいらっしやったグレコ会でした。この中で自分を見つめることができました。中でも指導教官としてお世話になったのは中村先生でした。分野も関心も違う私をよく引き受けて

いただいたものだと、今も感謝いたしております。しかも自分自身が小さな存在であると自覚しているのに、私の範囲を広げるよう、私の良いところを見つけていただき、自分の関心のままでいいんだよと言っていただきました。本当にありがたいことでした。

授業やグレコ会で先生にお会いさせていただく中で、システム、スケールという概念的な考え方の中に、気団や気候要素を位置の関係として解き明かす、法則を私たちに教えていただいたことを覚えています。学問の法則はこのように考えて作るのかと。私の中で自分が目指すべき目標を示していただいた気持ちになりました。科学的な思考方法を自分の中に取り入れたいと強く思いました。

駒沢大学に移られた後もお会いすると、こんな関心を持っている学生がいるんだよと話しかけられました。彼らのために有益な情報を求められました。周りに来る学生をきちんと一人の人として扱い、対等の目線で見られている先生を感じました。どこまでいっても人を大切にされる先生でした。きっと先生の回りには先生を慕う人で囲まれていたのだろうと思っています。

先生からいただいた最大のは人と接するときには相手を人として尊重することだったように思います。私がうけてきた学校教育では高いところから指導される先生もいらっしやいました。それとは違う先生の姿を示していただきました。自分も中村先生のように、そうありたいとずっと目指してきました。中村先生の思い出は、浄化されて尊きものとして今も私の中で生きております

中村先生ありがとうございました。

(香川大学名誉教授)